

組合士 アラカルト

トキワビジネス協同組合

常務理事

かわしま ゆたか
川島 豊さん

組合員が安心・納得できるサポートを目指して常に「二歩リード」を心がける

「組合士」取得で人生訓練

「組合員の皆さんは経営者、大抵は私より大先輩の年長者です。その方々とお付き合いいし、様々な情報提供やご提案をしていく上で、組合士になったことが役に立った」。組合士資格の効用をこう語るのは、埼玉県深谷市のトキワビジネス協同組合の川島豊常務理事である。

「埼玉県の組合士協会は組合士の共通意識が強く、とても良い関係がつくられている」とのこと。これは、現在はもろろん、川島さんが資格を取得した1994年当時から変わらないという。「組合士になった頃の協会は10名ほど。大先輩ばかりで、若造だった私には、正直に言って緊張感、違和感もありましたが、先輩達が気さくに接してくださるうちに、年長者の方々の付き合い方を自然に学ばせていただいた。それが組合での組合員の皆さんへの対応にも非常に良い影響をもたらしてくれた」。組合士・川島さんのこの実感には、トキワビジネス協同組合の特徴、性格も深く関わっている。今でこそ、「業務のアウトソーシング」は規模を問わず企業にとって「当たり前」になっている。むしろ、事業展開や

業績に繋がったり、自社の限られた人材、経営資源を最適化している等々、アウトソーシングの活発化で恩恵を受けている中小企業、経営者は少なくないと思われる。

トキワビジネス協同組合は、40年も前から、この点に着目して労務管理や会計管理の専門家達が事務局を構成、労働保険事務組合事業をメインに、業種も規模も多種多様の組合員各社の労務や財務のサポートに当たってきているのである。当然、組合事務局と組合員である各社の経営者は直接接する機会も多い。その結果、冒頭の川島さんの実感は生まれているのである。

「ゆりかごから墓場まで」の異業種協同組合

かつては縫製業や窯業（土管・練瓦等）など日本のものづくりの基盤を形作ってきた産業で栄え、現在では首都圏と東北・信越地方との間の物流拠点のひとつとなっている埼玉県深谷市。同組合は昭和43年11月、その常盤町で設立された（組合名はこの町名に由来するが、現在は東方町に所在）。「ゆりかごから墓場まで」とたとえる

ほど多種多様の業種で構成される約200社が組合員である。同組合は埼玉県下第1号の異業種協同組合という歴史を持つが、その設立に至る過程は決してスムーズではなかった。中小企業の事業協同組合と言え、同業種の企業が集まり、そのスケールメリットを活かすことにより組合員各社の経営資源の不足を補うことが一般的だった当時にあつては、業種も規模もばらばらの事業所が集まって組合を結成することについて、行政等の理解は簡単には得られなかったのである。

「どういうことであれば共同事業になるのか」。突き詰めていくと、すべて異業種の組合員に共通する部分は「労働」になる。規模の大小や業種の異同を問わず、企業であれば人を雇用し、その雇用した人々に対して働くことについて安心と安定を与える責任がある。とはいえ、中小企業では、一社単位でその責任をすべて果たすのは容易ではない。そこで、労働や労働に関わる情報の提供、福利厚生という部分を支える組合であれば、異業種であっても組合員間に共通の意識が生まれるし、組合としての共同事業も成り立つ。こうした考えに基づいて設立されたのが同組合だったのである。

常に「一歩先」の組合運営に取り組み

組合設立5年後の昭和48年には労働保険組合として認可されて組合員全社が加入、いわゆる労働保険事務は同組合ですべて対応するようになった。以来、税理士でもある理事長は経営ノウハウ・情報の提供に力を入れ、社会保険労務士である専務理事や川島さんたちは国や自治体中央会が実施する予算事業の受託等を通じて、例えば時短や高齢者雇用など、「少しでも組合員のメリットになれば」と労働条件の改善等に取り組んできている。さらに「組合員への気づきの喚起」と「組合業務の効率化」を目的に、ISO9001（2000年版）も取得した。

「おこがましいですが、組合は組合員さんを指導する立場にもあります。それには、常に一歩先を見て、『組合はこういうことも考え行動していますよ』と態度で示していくことが何よりも大切ですよ。そのために組合士という資格、仲間の存在も含め、常に情報のアンテナを高くしていきたいと努力しています」。今日も縁の下の力持ち組合士・川島さんは前を向く。

